



あいじつ



開校 143周年

「利他心」とは

副校長 原島 謙一

早いもので令和5年も残すところ後1か月となりました。先日、ある雑誌を読んでいると、稲盛和夫さんの記事があり、とても共感したのでご紹介させていただきます。

稲森和夫さんは、京セラや第二電電（現 KDDI）の創設者であり、また日本航空を経営難から再建させました。稲森さんは、中学生に講演をした時に「利他の心」の話がされています。人間の心の奥底には「他を慈しみ愛する、優しい思いやりの心」があり、これを「利他の心」と説いています。同時に、人間の本能には「自分だけよければいい」という「利己的な心」があることにも触れています。

そして、社会に出たときには、人柄が大変大事だと言っておられます。いい人柄というのは、利他の心で、優しい思いやりの心が、常に出てくるようにする。自分だけがよければいいという利己の心ではなく、他を慈しみ愛する、美しい利他の心を常に描いていきさえすれば、人柄は立派になっていくと言っています。同時に、素晴らしい思いを描いて、達成するために一生懸命努力すれば、その思いは必ず完成するとも言っています。

小学校は、多くの児童と一緒に生活する場所です。愛日小学校の児童は、友達とよいかかわりを築きながら利他の心を磨いてくれたら素敵だろうと思っていました。残り1か月、令和5年を振り返り、新しい年に向けて準備をしてくれればと願っております。

校庭への靴履き替えについて

校庭の人工芝が劣化してきています。校庭に出たあと上履きのまま校舎内に入るとゴムチップ等が大量に校舎に入り汚れてしまうため、全校で集まる場合（朝会、避難訓練、式等）を除いて体育等の学習や休み時間の際には、下履きに履き替えることにします。

体育のある日は、運動に適した靴で登校するようにしてください。12月1日より実施いたします。

ご理解とご協力をお願いいたします。

生活科について

担当 町田 利章

生活科は、様々な活動や体験を通して、子供たちの「自立し生活を豊かにしていく力」をよりよく伸ばしていくことを目指しています。この力の中には、「めあてに向かって主体的に活動する力」や「友達と仲よくしながら、互いに尊重し活動を進めていく力」、更に「挨拶の仕方」等も含まれています。

活動や体験を進める中で、一人ひとりが見せる「伸び」を捉え、それを自信につなげられるように支援していきたいと思っています。

また、生活科は保護者の皆様のお手伝いや地域の方々のご協力がどうしても必要になります。今後ともどうかよろしく願います。

今月は、一年生は「アサガオのつるを使ったリース作り」等、二年生は「町探検」等の活動に取り組む計画です。

連携教育について

担当 橋本 亜沙美

新宿区では、就学前から中学校卒業までのつながりのある教育を推進するために、近隣の就学前施設や小・中学校と連携を取りながら教育を進めています。本校では、近隣園や近隣校と定期的に連携の機会をもっています。

例えば、小学校へ入学し、スムーズに学校生活や学習に慣れていくための「スタートカリキュラム」を作成したり、学んだことを振り返り、将来の生き方を考える「キャリア・パスポート」を作成したりしています。

こうした連携は、子どもたちが新しい場所でも安心して学校生活を送る手立てになります。小学校へ入学し、中学校へと成長していく過程を長期的に見据えた指導のためにも、よりよい連携を進めていきます。